植物（要約）

森から岩だらけの海岸、山々、浅瀬の湾までそろう伊勢志摩国立公園、は様々な植物の生息地です。

伊勢志摩国立公園の山や森の樹は、その多くが常緑樹です。日本の最も重要な神社である伊勢神宮の宮域林には原生的な植生が保護区として残されており、針葉樹と常緑広葉樹（照葉樹）が混交しています。一方で、伊勢志摩国立公園の二次林には炭の原料として使用されるウバメガシなどが生育しています。

横山園地や登茂山の林などでは、コバノミツバツツジが早春に淡い紫色の花を多数咲かせます。冬には、伊勢志摩でよくみられる原生植生のひとつであるヤブツバキが金毘羅山で赤い花を咲かせます。

志摩市の国府白浜、広の浜などには広い砂浜が存在し、ユニークな海岸植物が生育しています。ハマユウは7～8月頃に白色で細長い花被片の花を咲かせます。ハマボウは五ヶ所湾や英虞湾、的矢湾などの岸辺で8月の初め頃に黄色い大きな花を咲かせます。

伊勢志摩の周辺は比較的水深の浅く、ヒジキやテングサといったさまざまな海藻類にすばらしい環境を提供しています。